

行政視察等報告書

平成29年 3月14日

境港市議会

議長 岡空 研二 様

会派名 自民クラブ

代表者 荒井 秀行



下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

記

1 視察等期間	平成29年 2月21日（火）
2 視察等先 及び内容	<p>【行政視察】 平成29年 2月21日（火） 9:45～12:20 岡山県瀬戸内市邑久町尾張465-1 瀬戸内市民図書館「もみわ広場」</p> <p>視察内容 瀬戸内市民図書館の概要と取り組みについて</p>
3 視察等議員	荒井秀行・佐名木知信・築谷敏雄
4 総経費	合計（3名）8,649円 （一人当たり2,883円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所見等	別紙のとおり

内 容：瀬戸内市民図書館の概要と取り組みについて

報告者：築谷 敏雄

所見等：

視察対応：瀬戸内市議会 総務文教委員会 副委員長 島津 幸枝

瀬戸内市議会事務局 局長 出射 正

瀬戸内市民図書館 もみわ広場 館長 嶋田 学

瀬戸内市民図書館「もみわ広場」は平成28年6月1日オープンし、飲料を飲みながらの読書も可能にするなど規則面を緩和し、同市出身の世界的な人形師、竹田喜之助（本名・岡本隆郎＝1923～79年）の顕彰コーナーなども設けている。同図書館は旧邑久中学校跡地に整備し、鉄筋コンクリート一部木造2階建て（延べ床面積2,400平方メートル）で、外観は隣接する赤レンガの市中央公民館と色調の調和を図り、両館の間の緑地部分には市特産のオリーブを植樹した。愛称の「もみわ」は公募の結果、「もちより」「みつけ」「わけあう」の運営理念にちなんで命名した。蔵書数は20万冊（開架書架：12万冊、閉架書架：8万冊）で、ゆったりと過ごしてもらうため、読書コーナーには屋外デッキやテラス席もあり、開放的な吹き抜け空間が特徴で、郷土史関係資料を集めた「せとうち発見の道」やパソコンのコーナーなども設けている。旧校舎跡にあった郷土資料館の機能も移転。喜之助の功績や貴重な人形が並ぶ展示室、人形劇グループの活動拠点となる舞台も設置した。総事業費は約9億6,190万円。

≪ 瀬戸内市立図書館が目指すもの ≫

～メインコンセプト「もちより・みつけ・わけあう広場」～

高度化・複雑化した現代社会において、市民は「自己判断・自己責任」を迫られる場合が多い。しかし、様々な状況で判断や選択をするには適切な情報が欠かせない。

新図書館では、現在十分ではない市民の一人ひとりの必要に応える情報や居場所としての空間を「持ち寄り・見つけ・分け合う広場」として提供する。図書館に寄せられる様々な要求は、いわば市民が持ち寄った「必要」や「課題」である。それを図書館に集う市民が互いに自分の「必要」として見つけ、分け合う、市民の交流と連帯を育む広場を作ろうとするものである。

市民に「必要」を持ち寄ってもらうには、図書館という広場が開かれたものであると同時にその「必要」を満たす情報が一定量用意されていなければならない。また、市民がそれらを見つけるには、時勢に合わせた魅力的な資料情報の展示が必要

となる。さらに、市民が互いの「必要」を分け合うには、相互の交流を醸成する空間づくりが不可欠である。これらの要素を形づくるには、司書の役割が極めて重要である。なお、このメインコンセプトは、新図書館を拠点とする各地域の分館や移動図書館を含めた図書館サービス網を基本に、市内のどこに住んでいても均質な図書館サービスを受けられるものとして構想するものである。

1) 基本理念 ～7つの指針～

「もちより・みつけ・わけあう広場」というメインコンセプトを実現するための新図書館像を7つの指針に示す。

1. 市民が夢を語り、可能性を拓ける広場
2. コミュニティづくりに役立つ広場
3. 子どもの成長を支え、子育てを応援する広場
4. 高齢者の輝きを大事にする広場
5. 文化・芸術との出会いを生む広場
6. すべての人の居場所としての広場
7. 瀬戸内市の魅力を発見し、発信する広場

2) 市民参加による図書館計画づくり

図書館整備の計画づくりにさいして、市民のみなさまに参加していただくワークショップ「としょかん未来ミーティング」を12回開催し、ワークショップでは、市から図書館づくりの基本的な考え方を示した「基本構想」を公表し、これについて具体的な意見をワークショップで伺い、これを参考に「基本計画」や「実施計画図」へと展開してきた。その経過においては、建築の「基本設計図」をワークショップの場で市民のみなさまと検討をし、出された意見を「実施計画図」に反映した。また、「としょかん未来ミーティング」《子ども編》では、ワークショップのやり方自体を子どもたちに考えてもらうために企画運営委員を公募し、応募してくれた14名の中高校生と3回の企画会議を行い、2日間にわたってワーキングショップを開催し70名の子どもたちが参加してくれました。そこで出た意見は、グループ学習ができる「チャットルーム」の整備やライトノベルズの棚づくりなどが活かされています。

3) 図書館におけるサービス

- ①移動図書館によるサービスネットワーク
- ②郷土展示機能による地域学習の推進
- ③生涯学習拠点化事業
- ④学校図書館支援
- ⑤市民との連携による学習支援活動の展開

これからの図書館に求められるのは、本来の資料提供の役割に加え、現在は居場所であったり、出会いの場であったり様々な顔を持つ図書館が求められています。家庭でもなく、学校や職場でもないサードプレイスとしての図書館は、地域の中でも特に「つながりやすい」場所といえます。ゆるやかなつながりを求める人と人を、どうつないでいくのか。人と人の間に、地域の図書館があることで、思わぬところで思わぬつながりができ、そこから広がっていく可能性はとても大きなものであるといえます。資料の貸借だけでなく、これからの図書館や、図書館の職員には、地域の中で「どうつなぐか」の技術が求められているように思いました。

本市の市民交流センター（仮称）については、複合施設ということで図書館についての考え方が少し薄いと思われます、瀬戸内図書館の基本計画から実施設計についての取り組み方等、先進地を十分に分析をし、もう少し市民の広く各層の年代のかたからの意見を聞き取り繁栄させてほしいと考えます。